

四万十市 災害・避難カード(風水害・大雨時) ~日頃から目につく場所に掲示しておきましょう~ ご自宅の災害リスク、いつ、どういった情報に基づいて、どこに避難をするのか、事前に家族で確認しておきましょう

① 自宅の災害リスクを確認

該当する項目にチェック「✓」

●過去に家が浸水したことが
 ある ない

●土砂災害

危険区域内 危険区域外

⇒ 過去に浸水実績がある場合、
土砂災害危険区域内にある場合は、自宅外への避難が原則



急な増水時など、避難所へ避難する方が危険な場合には、自宅内により高く、より山から離れた部屋に避難する垂直避難が有効。

③ 情報の入手方法を確認

- 防災行政無線
※**34-7800**で聞き返し
- 緊急速報メール(エリアメール)
- 市LINE
- テレビ(NHKデータ放送)
- IP告知端末
- ()

※市LINE、テレビのデータ放送の使用方法は裏面参照

④ 避難先を確認

避難を予定している避難先を記入しましょう。
避難所での新型コロナウイルスへの感染も考慮して、できるだけ避難所での密を避けるため、避難所以外の、災害リスク区域外に位置する親戚・知人宅等への避難(分散避難)も検討しておきましょう。

この災害・避難カードは、市内全世帯に配布していますので、親戚宅等の災害リスクは、事前に確認しておきましょう。

② 避難のタイミングを確認

大雨が降り続いている、河川の氾濫や土砂災害の危険性が高まった場合、市役所からその危険性に応じて、「避難指示」や「高齢者等避難」が発令されます。

皆さんの家庭の避難タイミングを下図で確認し、「我が家の避難タイミング」欄に「○」を記入し、その下に、①で把握した自宅の災害リスク(土砂災害・洪水)を記入しましょう。

高

危
險
性

低

土砂災害	洪水 (四万十川)	避難情報	我が家 の 避難タイミング
災害発生 又は切迫	災害発生 又は切迫	警戒レベル5 緊急安全確保	警戒レベル5は既に安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル4までに避難を済ませてください。
土砂災害 警戒情報 紫メッシュ	氾濫危険 水位超過 津野川観測所 12.7m	警戒レベル4 避難指示	危険な場所から全員避難
土砂災害 警戒情報 赤メッシュ	避難判断 水位超過 津野川観測所 11.9m	警戒レベル3 高齢者等避難	高齢者にかかわらず避難に時間を要する方は避難

*土砂災害メッシュ情報・河川の水位情報の確認方法については裏面を確認してください。

⑤ 避難に関する注意事項を確認

- 持ち出し品の準備は早めにする
- 増水した河川や水路に近づかない
- 動きやすい服装で避難する
- 食料や水など当面必要なものを持参して避難する
- 避難所までの避難経路を普段から確認し、危険な箇所を確認しておく
- 避難前、避難後に避難先などを連絡する相手や連絡先を決めておく
(連絡相手 電話番号)

■ 市の避難所における新型コロナ対策

- ①備蓄品(マスク・消毒液・体温計・室内テント等)の配備
- ②運営マニュアルの作成
- ③避難所運営訓練の実施(R2.6.16)
- ④マスクの着用・定期的な検温・健康状態の確認
- ⑤感染が疑われる場合は、別室への移動
- ⑥避難所以外の親戚・知人宅等への避難(分散避難)も検討いただく
- ⑦できるだけマスク・消毒液等を持参いただく

皆さまのご理解とご協力をお願いします。



飛沫感染防止のための室内テント



訓練の様子

大川筋地区（田出ノ川・鵜ノ江・勝間・勝間川・久保川）

大雨時開設予定避難所

大川筋中学校 2 階音
楽室

防災無線放送内容確認
☎34-7800

市公式LINE
友だち追加



テレビデータ放送

NHK放送画面で

- ① Dボタン
 - ② 防災・生活情報を選択
- 四万十市に関する各種防災情報を確認可能

津大地区

浸水の深さ

- 5.0 ~ 10.0m未満
- 3.0~5.0m未満
- 0.5~3.0m未満
- 0.5m未満

浸水実績

四万十川(平成17年台風14号)
岩田川(平成28年台風16号)

土砂災害

- 土石流危険渓流(被害想定区域)
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 土砂災害警戒区域(土石流)
- 土砂災害警戒区域(急傾斜)



気象庁
(土砂災害メッシュ情報等確認)



川の防災情報
(水位確認)



四万十市
ハザードマップ

Yahoo防災情報
(各種防災情報配信)

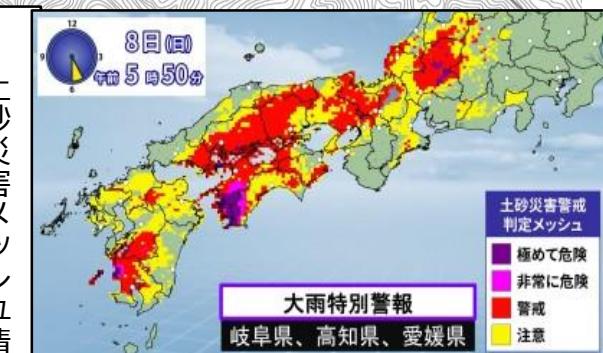
四万十川、後川、中筋川の浸水想定区域図について

四万十川、後川、中筋川（いずれも国直轄区間）について、河道整備状況及び、中筋川ダムの洪水調整施設の状況を勘案して、水防法の規定により指定された浸水想定区域図、浸水深等を示します。

概ね 100 年に 1 回の大雨(四万十川は 600mm/2 日、中筋川は 550mm/2 日、後川は 560mm/2 日)

が降ったときのことを仮定して浸水状況を算定しています。

なお、支川のはん濫、想定を超える降雨、内水によるはん濫は考慮していませんので、浸水想定区域外においても浸水が発生する場合や、想定した水深が実際の水深と異なる場合があります。



気象庁 HP で確認できます